

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目的	1
III	研究仮説	2
IV	研究構想図	2
V	研究内容	3
	1 「主体的・対話的で深い学び」について	
	2 体育科の「見方・考え方」について	
	3 中学年「ゲーム」について	
VI	授業実践	8
	1 授業実践における取り組み	
	2 授業実践「フラッグフットボール」	
	3 授業実践「グリッドサッカー」	
VII	結果と考察	17
	1 分析方法	
	2 フラッグフットボールにおける学習の結果	
	3 グリッドサッカーにおける学習の結果	
	4 「作戦づくり」に関する意識調査	
	5 考察	
VIII	成果と課題	25
	1 成果	
	2 課題	
IX	参考文献	25

主体的に体育学習に取り組む児童の育成

～中学年ゲームにおける「作戦づくり」を通して～

宮古島市立南小学校教諭 佐久本 拓実

I テーマ設定の理由

小学校学習指導要領解説体育編（以下「学習指導要領」）では、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、体育科で求められる資質・能力の育成が述べられている。教師には、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で整理される資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進、体育科の「見方・考え方」を働かせる学習過程の工夫等が求められている。

筆者はこれまで、場の設定や練習方法の工夫、タイムマネジメントを意識した体育学習に取り組んできた。運動時間（身体活動量）の確保等を意識した学習により、多くの児童が体育学習を肯定的に捉え、活発な授業に取り組めたという所感を持っている。一方で、児童の活発な姿とは対照的に、考えの交流や思考を深める学習指導には、効果的に取り組むことができず、学習指導要領に示されている三つの資質・能力をバランスよく育む学習過程の工夫に課題があったと考える。

事前に行った体育学習に関する実態把握のためのアンケートからは、ほとんどの児童が体育学習を肯定的に捉えているとの回答を得ることができた。一方で、協働活動を苦手としている回答も多数挙げられ、習得した知識及び技能を活用しての課題解決や学習したことを相手に分かりやすく伝えること等、児童が考えを交流し思考を深める活動に課題があることが明らかとなった。

体育学習における、交流活動の充実、知識及び技能を活用した課題解決、学習したことを相手に分かりやすく伝える力の育成に効果的であり、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進」、「資質・能力の三つの柱をバランスよく育むことができる学習過程の工夫」を図る上で重要な要素であると言える。

そこで本研究では、競い合う楽しさに触れたり、友達と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わったりすることができる特性を持つ、ボール運動系（中学年、ゲーム）の学習において、「作戦づくり」の時間を意図的に設定し、交流活動の充実を図っていく。集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競争するボール運動系（中学年、ゲーム）の学習に、他者との協働や知識の活用が求められる「作戦づくり」の活動を取り入れ、多様な学習活動に親しませることで、体育科の「見方・考え方」をより豊かに育み、主体的に体育学習に取り組む児童の育成を目指していく。

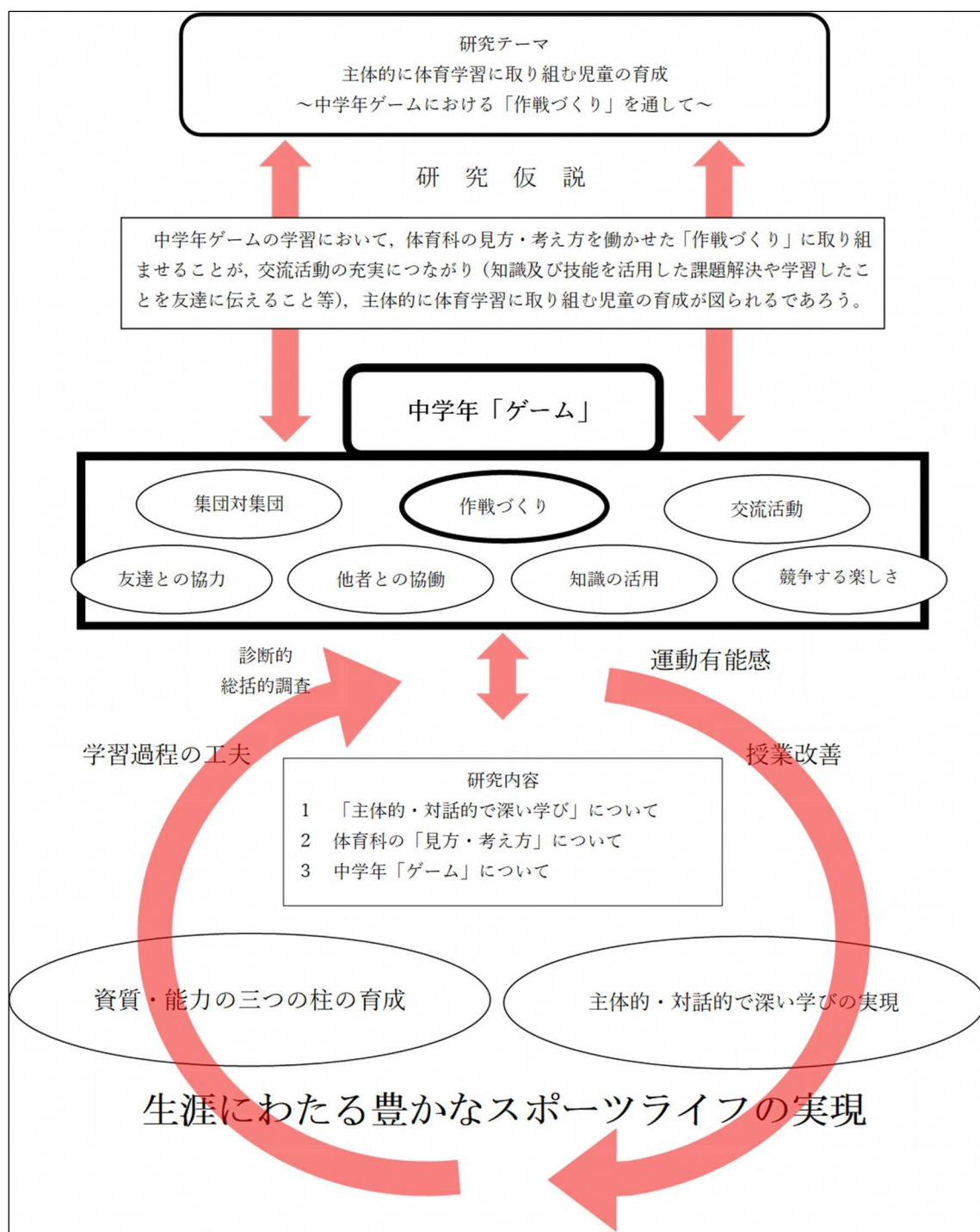
II 研究目的

ボール運動系（中学年、ゲーム）の学習において、「作戦づくり」を取り入れ、体育科の見方・考え方を働かせた多様な学習活動に親しませることが、主体的に体育学習に取り組む児童の育成に効果的であるか実践的に検証することを目的とする。

Ⅲ 研究仮説

中学年ゲームの学習において、体育科の見方・考え方を働かせた「作戦づくり」に取り組ませることが、交流活動の充実につながり（知識及び技能を活用した課題解決や学習したことを友達に伝えること等）、主体的に体育学習に取り組む児童の育成が図られるであろう。

Ⅳ 研究構想図



V 研究内容

1 「主体的・対話的で深い学び」について

(1) 体育科で育成を目指す資質・能力

生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、発達の段階のまとまりを踏まえて、体育科で求められる資質・能力を育成するために、「カリキュラム・マネジメント」及び主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進が述べられている。

また、教師には、体育科の「見方・考え方」を働かせる学習過程の工夫を通して、資質・能力を育成していくことが求められている。中央教育審議会答申(平成 28 年 12 月)では、体育科で育成を目指す資質・能力が以下のように整理されている(表 1)。

表 1 体育科、保健体育科において育成を目指す資質・能力の整理(小学校)
(参考文献, 中央教育審議会答申・平成 28 年 12 月を参考に筆者作成)

個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能 ・各種の運動の行い方に関する基礎的な知識 ・各種の運動を行うための基本的な技能	自己の能力に適した課題をもち、活動を選んだり工夫したりする思考力・判断力・表現力等 ・自己の能力に適した課題に気付く力 ・自己の課題を解決するための活動を選んだり、運動の行い方を工夫したりする力 ・思考し判断したことを、言葉や動作等で他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度 ・進んで学習に取り組む ・約束を守り、公正に行動する ・友達と協力して活動する ・自分の役割を果たそうとする ・友達の考えや取組を認める ・安全に気を配る

学習指導要領では、資質・能力の育成に向けた内容構造の整理について、「体育については、『体育の見方・考え方』を働かせて、資質・能力の三つの柱を育成する観点から、運動に関する『知識及び技能』、運動に関する課題の発見・解決等のための『思考力、判断力、表現力等』、主体的に学習に取り組む態度等の『学びに向かう力・人間性等』に対応した内容で示すこととした。その際、児童生徒の発達段階を踏まえて、学習したことを実生活や実社会に生かすとともに運動の習慣化につなげ、豊かなスポーツライフを継続することができるように、小学校、中学校、高等学校を通じて系統性のある指導ができるように、引き続き指導内容の体系化を図ることを重視した。なお、運動領域においては、『学びに向かう力、人間性等』に対応した、公正、協力、責任、参画、共生及び健康・安全の具体的な指導内容を示すこととした。」と示されている。

本研究では、『体育の見方・考え方』を働かせて、資質・能力の三つの柱を育成する」視点に着目し、「体育の見方・考え方」と「作戦づくり」の関連を図った多様な学習活動を展開していくことで、主体的に体育学習に取り組む児童の育成を目指していく。

(2) 学習指導要領における小学校体育科の目標

体育科の目標は、小学校教育の中で体育科が担うべきものを示すとともに、体育科の学習指導を方向付けるものである（表 2）。

表 2 小学校体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

この目標は、(1)～(3)の目標が相互に密接な関連をもちつつ、体育科の究極的な目標である、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指すことを示している。

(3) 主体的・対話的で深い学びについての捉え

体育科で求められる資質・能力の育成を目指し学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点が以下のように述べられている（表 3）。

表 3 授業改善の視点（参考文献，学習指導要領を参考に筆者作成）

【主体的な学び】

- ・運動の楽しさや健康の意義等に気付き、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組み、考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を設定したりするなどの主体的な学びを促すこと。

【対話的な学び】

- ・運動や健康についての課題の解決に向けて、児童が他者（書物を含む）との対話を通して、自己の思考を広げたり深めたりするなどの対話的な学びを促すこと。

【深い学び】

- ・それらの学びの過程を通して、自己の運動や健康についての課題を見付け、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決するなどの深い学びを促すこと。

授業改善に向けた視点について学習指導要領では、「これら三つの学びの過程をそれぞれ独立して取り上げるのではなく、相互の関連を図り、体育科で求められる学びを一層充実することが重要である。また、これら三つの学びの過程は、順序性や階層性を示すものでないことに留意することが大切である。」さらに、「指導方法を工夫して必要な知識及び技能の習得を図りながら、子供たちの思考を深める発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を追究し、必要な学習環境を積極的に設定していくことが大切である」と実践にあたっての留意点等が示されている。

2 体育科の「見方・考え方」について

(1) 見方・考え方の捉え

奈須は、『「資質・能力」と学びのメカニズム』において、「学校教育も『正解』を教える在り方から、その状況における『最適解』をその都度自力で、あるいは多様な他者と協力しながら生み出すことのできる資質・能力を育成する在り方へと、その原理を大きく転換する必要が迫られていることが見えてきました。」と述べている。さらに、「子供達が明晰な自覚を持ってその教科ならではの『見方・考え方』を身に付け、さらにその教科が主に扱う領域や対象を踏み越えて、それらを様々な問題解決に自在に駆使できるようになるということ。」と見方・考え方に対する捉え方を述べている。

(2) 学習指導要領における体育科の見方・考え方

体育科の見方・考え方について学習指導要領では、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特徴に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす視点から捉え、自己の特性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」、「小学校においては、運動やスポーツは特性に応じた楽しさや喜びがあることと体力の向上につながっていることに着目するとともに、『すること』だけでなく『みること』、『支えること』、『知ること』など、自己の特性等に応じて、運動やスポーツとの多様な関わり方について考えることを意図している。」と示されている。

(3) 体育科の見方・考え方の具体的な姿

玉腰は、体育科の見方・考え方「する・みる・支える・知る」を「運動行為、他者観察、教え合い、知識の獲得」と定義し、「学校と社会をつなぐスポーツとの多様な関わり方の視点」として具体的な姿を示している（表4）。

表4 学校と社会をつなぐスポーツとの多様な関わり方の視点

する	スポーツの実践・習熟・探究 スポーツ集団・組織への参加 スポーツ企画への参加 情報技術・データの活用
みる	身体運動の観察・評価 情報・データの分析 スポーツ観戦・鑑賞 スポーツ番組・動画の視聴
支える	スポーツにおける協同行為 スポーツの指導・組織・運営 スポーツ企画の運営・サポート スポーツインテグリティの保護・強化
知る	スポーツの戦術・技術・ルール スポーツの指導・組織・運営方法 スポーツの歴史・社会・文化 情報技術・データの活用方法

3 中学年「ゲーム」について

(1) 運動領域の内容構成

学習指導要領では、個に応じた多様な学習を積極的に行うことを目指し、運動領域における内容の構成を基本的に低・中・高学年の三段階で示している（表 5）。

表 5 体育科の内容構成

学年	1・2	3・4	5・6
領 域	体づくりの運動遊び	体づくり運動	
	器械・器具を 使ったの運動遊び	器械運動	
	走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動
	水遊び	水泳運動	
	ゲーム		ボール運動
	表現リズム遊び	表現運動	
		保健	

本研究で取り扱うボール運動系は、体育科の内容（オ）に示されており、「友達と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わったりすることができる運動である。」と示されている。また、ボール運動系の領域として、低・中学年を「ゲーム」、高学年を「ボール運動」で構成している（表 6）。

表 6 ボール運動系の内容構成（参考文献，学習指導要領を参考に筆者作成）

低学年「ゲーム」	・ ボールゲーム ・ 鬼遊び
中学年「ゲーム」	・ ゴール型ゲーム ・ ネット型ゲーム ・ ベースボール型ゲーム
高学年「ボール運動」	

(2) 中学年ゲームの内容・特性

学習指導要領において、「ゲームの学習指導では、友達と協力してゲームを楽しくする工夫や楽しいゲームを作り上げることが、児童にとって重要な課題となってくる。集団で勝敗を競うゲームでは、規則を工夫したり作戦を選んだりすることを重視しながら、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームを一層楽しめるようにすることが学習の中心となる。また、公正に行動する態度、特に勝敗をめぐって正しい態度や行動がとれるようにすることが大切である。」と示されており、児童の交流活動（学び合いや教え合い等）の充実が期待できる運動であると言える。

また、「低学年のゲームの学習を踏まえ、中学年では、ゲームの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームができるようにし、高学年のボール運動の学習につなげていくことが求められる。」とあるように、低・中・高学年の三段階で示されている内容の関連性を意識した学習指導が求められている。

表7 中学年ゲームにおける指導内容（ゴール型ゲームを中心に筆者作成）

【知識及び技能】

(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、易しいゲームをすること。 ア ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすること。	
ア ゴール型ゲーム	【例示】 ○ハンドボール、ポートボール、ラインサッカー、ミニサッカーなどを基にした易しいゲーム（味方チームと相手チームが入り交じって得点を取り合うゲーム） ○タグラグビー、フラッグフットボールなどを基にした易しいゲーム（陣地を取り合うゲーム） ・ボールを持ったときにゴールに体を向けること。 ・味方にボールを手渡したり、パスを出したり、シュートしたり、ゴールにボールを持ち込んだりすること。 ・ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動すること。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること。 ア 規則を工夫すること イ ゲームの型に応じた簡単な作戦を選ぶこと ウ 課題の解決のために考えたことを友達に伝えること	
--	--

【学びに向かう力、人間性等】

(3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたら、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。 ア 易しいゴール型ゲーム、ネット型ゲーム、ベースボール型ゲームに進んで取り組むこと。 イ ゲームの規則を守り、誰とでも仲よくすること。 ウ ゲームで使用する用具などの準備や片付けを、友達と一緒にすること。 エ ゲームの勝敗を受け入れること。 オ ゲームやそれらの練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりして見付けた動きのよさや課題を伝え合う際に、友達の考えを認めること。 カ ゲームやそれらの練習の際に、使用する用具などを片付けて場の危険物を取り除くなど、周囲を見て場や用具の安全を確かめること。	
--	--

VI 授業実践

1 授業実践における取り組み

宮古島市立南小学校4年生63名(男子33名,女子30名)を対象に,2022年11月「フラグフットボール」,2023年2月「グリッドサッカー」を実施した。授業実践では,「作戦づくり」の活性化に向けて,以下3点の学習活動の工夫に取り組んだ。

(1) 単元計画・授業計画の見直し

本来,6時間で計画されている単元を7時間に変更して実施した。1時間を「作戦づくり」の時間とし,チームや個人の特徴を生かした作戦を考える時間と設定した。

また,単元を通して「作戦づくり」を中心に学習活動を展開していくが,体育の本質である体を動かす運動時間(身体活動量)を確保するために,全7時間の学習において基礎感覚運動とゲーム(試合)の時間を多く設定した(図1)。運動時間(身体活動量)の確保による知識及び技能の向上を,「作戦づくり」の活性化につなげていきたいという筆者の思いを反映できるように,単元計画を工夫した。

時間	1		2		3		4		5		6		
	1.参列・あいさつ(大)	2.めあての確認(小)	1.参列・あいさつ(大)	2.めあての確認(小)	1.参列・あいさつ(大)	2.めあての確認(小)	1.参列・あいさつ(大)	2.めあての確認(小)	1.参列・あいさつ(大)	2.めあての確認(小)	1.参列・あいさつ(大)	2.めあての確認(小)	
0	【めあて】 学習のめあてを共有し、 ゴールになんか運動をしよう。	【めあて】 2.めあての確認 めあてを確認し、ゴールになんか運動をしよう。	【めあて】 【めあて】 3.リズム体操 リズム体操を行い、 ゴールになんか運動をしよう。	【めあて】 【めあて】 3.リズム体操 リズム体操を行い、 ゴールになんか運動をしよう。	【めあて】 【めあて】 3.リズム体操 リズム体操を行い、 ゴールになんか運動をしよう。	【めあて】 【めあて】 3.リズム体操 リズム体操を行い、 ゴールになんか運動をしよう。	【めあて】 【めあて】 3.リズム体操 リズム体操を行い、 ゴールになんか運動をしよう。	【めあて】 【めあて】 3.リズム体操 リズム体操を行い、 ゴールになんか運動をしよう。	【めあて】 【めあて】 3.リズム体操 リズム体操を行い、 ゴールになんか運動をしよう。	【めあて】 【めあて】 3.リズム体操 リズム体操を行い、 ゴールになんか運動をしよう。	【めあて】 【めあて】 3.リズム体操 リズム体操を行い、 ゴールになんか運動をしよう。	【めあて】 【めあて】 3.リズム体操 リズム体操を行い、 ゴールになんか運動をしよう。	
5	4. 【活動①】 オリエンテーション ・フラッグフットボールについて ・学習の流れ ・学習の約束 等	4. 【活動②】 基礎感覚運動 【パワーアップタイム】 それぞれの動きのコツを見つけながら、 フラッグフットボールの技 能を身につける。 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	4. 【活動③】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	4. 【活動④】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	4. 【活動⑤】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	4. 【活動⑥】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	4. 【活動⑦】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	4. 【活動⑧】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	4. 【活動⑨】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	4. 【活動⑩】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	4. 【活動⑪】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	4. 【活動⑫】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	4. 【活動⑬】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール
15	5. 【活動①】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	5. 【活動②】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	5. 【活動③】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	5. 【活動④】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	5. 【活動⑤】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	5. 【活動⑥】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	5. 【活動⑦】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	5. 【活動⑧】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	5. 【活動⑨】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	5. 【活動⑩】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	5. 【活動⑪】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	5. 【活動⑫】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	5. 【活動⑬】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール
30	6. 【活動①】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	6. 【活動②】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	6. 【活動③】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	6. 【活動④】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	6. 【活動⑤】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	6. 【活動⑥】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	6. 【活動⑦】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	6. 【活動⑧】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	6. 【活動⑨】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	6. 【活動⑩】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	6. 【活動⑪】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	6. 【活動⑫】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	6. 【活動⑬】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール
40	7. 【活動①】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	7. 【活動②】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	7. 【活動③】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	7. 【活動④】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	7. 【活動⑤】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	7. 【活動⑥】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	7. 【活動⑦】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	7. 【活動⑧】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	7. 【活動⑨】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	7. 【活動⑩】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	7. 【活動⑪】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	7. 【活動⑫】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール	7. 【活動⑬】 基礎感覚運動 ①スローイング集っこ ②ハンドオフフリー ③キャッチボール ④移動キャッチボール

図1 運動時間の確保

(2) 作戦を考える手段の工夫

ワークシートや掲示資料を活用して,児童が運動を通して感じた,気づきや困り感を共有する活動に取り組んだ。グループ内で児童の思いや考えを伝え,共有することで,「作戦づくり」の視点が明確になることを期待した。

また,単元第4時目に取り組んだ「作戦づくり」の時間では,考える手段として,①タブレット端末・ジャムボード(図2),②作戦ボード(図3),③ワークシート(図4)の3つを用意した。作戦を考える方法は限定せず,各チームや個人に委ね,使いやすい手段,考えやすい手段をそれぞれで選択することで,体育科の見方・考え方を働かせた「作戦づくり」の活動に意欲的に取り組めるような学習活動の工夫を試みた。

さらに,「グリッドサッカー」における「作戦づくり」の際には,単元前半のゲームを撮影した映像を活用することで,コートやボールを持たないときの動きを客観的に捉え,より発展的な作戦づくりが行えるよう工夫した。

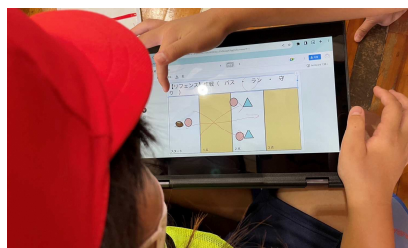


図2 ジャムボード

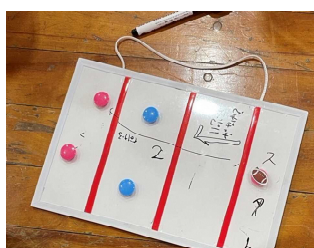


図3 作戦ボード



図4 ワークシート

(3) 作戦の活用方法の工夫

① フラッグフットボールにおける作戦の活用

攻撃側と守備側が明確に分かれ、攻守1回ごとにハドル（ミーティング）を組み、作戦を選択していくことがフラッグフットボールの特性である。そのため、児童が作戦を効果的に選択ができるよう、アメリカンフットボールのプレイブックを参考にした、「作戦ブック」（図5）を作成し、児童がゲーム（試合）で活用できるよう工夫した（図6）。

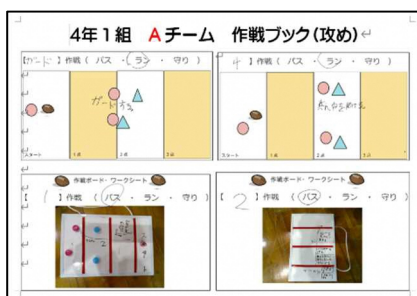


図5 作戦ブック



図6 作戦ブック活用の様子

② グリッドサッカーにおける作戦の活用

攻守が入り交じり、プレーが途切れることなく連続して行われるグリッドサッカーでは、「作戦ブック」の作成・活用には取り組ませず、試合前とハーフタイムでの作戦の確認や選択、修正を行う活動に重点を置いた。各チーム1台のタブレット端末と作戦ボードを活用し、相手チームやメンバーの特徴に合わせて作戦を使い分ける活動に取り組ませた（図7・図8）。

具体的な活用方法としては、「試合前後ではタブレット端末の活用」、「ハーフタイムでは作戦ボード活用」と、場面ごとにに応じて教材を使い分けることで、学習時間（タイムマネジメント）との兼ね合いを意識した学習活動を展開した。

1組 A 作戦ボード	自分
1組 B 作戦ボード	自分
1組 C 作戦ボード	自分
1組 D 作戦ボード	自分
1組 E 作戦ボード	自分
1組 F 作戦ボード	自分

図7 クラスルームにおける作戦の共有



図8 タブレット端末活用の様子

2 授業実践「フラッグフットボール」

(1) 実施学年・学級

○第4学年1組 32名 ○第4学年3組 31名

(2) 単元の指導目標

【知識及び技能】

フラッグフットボールの行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

規則を工夫したり、簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】

フラッグフットボールに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気をつけたりすることができるようにする。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①フラッグフットボールの行い方について、言ったり書いたりしている。	①誰もが楽しくゲームに参加できるように、規則を工夫している。	①規則を守り、ゲームに進んで取り組もうとしている。
②基本的なボール操作によって、易しいゲームをすることができる。	②自分とチームの友達の役割を踏まえた、簡単な作戦を考えたり、選んだりしている。	②攻め方や守り方について意見を出し合う際に、友達の考えを認めようとしている。
③基本的なボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができる。	③攻めや守りの工夫等について考えたことを、動作や言葉、絵図などを使って友達に伝えている。	③場や用具の準備・片付けを行ったり、安全を確かめたりしている。

(4) 研究テーマ・研究仮説（体育科の見方・考え方）との関わり

①「する」

チーム編成（6チーム編成，1チーム5～6名）や場の設定（3コートによる活動），ルール工夫（アウトナンバーゲーム）など，学級編成に合わせた学習環境を整えることで，個人・チームが実際に体を動かし，フラッグフットボールに触れる機会をより多く確保した．活動の充実に向けて，基礎感覚運動（パワーアップタイム）を取り入れることで，フラッグフットボールに関わる基本的なボール操作とボールを持たないときの動きの向上を図る指導の工夫に取り組んだ．

また、友達と意見を交流し作戦を考えることを苦手としている児童が多いという学級の実態を踏まえ、単元を通してチームで「作戦ブック」を作成する活動を取り入れた。児童が体を動かしたり、チームで話し合ったりする多様な学習活動を「作戦ブック」の作成につなげていくことで、「する・みる・支える・知る」の視点を取り入れた学習活動の活性化を図り、共に学び合う体育学習の実現を目指した。

②「みる」

「みる」活動を通して、フラッグフットボールに関する知識及び技能の向上と思考力、判断力、表現力等の深まりを目指した学習活動の充実に取り組んだ。個人やチームによる気づきや学びを共有していくために、「伝え合いタイム」を導入し、互いの考えを認め合う活動に取り組ませた。さらには、「作戦ブック」と関連させた活動を意識させることで、「みる」活動に対する児童の意欲の向上を図った。

児童の「みる」活動を支える手立てとして、単元計画や授業計画を見直し、時間の確保に取り組んだ。作戦ブック導入前と導入後で試合時間を変更し、児童がフラッグフットボールの動きを確認する機会を設けることで、個人やチームに応じた多くの視点でフラッグフットボールと向き合えるよう指導を工夫した。

③「支える」

①「する」の中でも触れたが、運動時間の確保や基礎感覚運動（パワーアップタイム）の導入により、フラッグフットボールに対して親しみを持たせることで、体力面や技能面を「支える」活動の充実を図った。

また、学習を進めていく中で、場の設定（準備、片付け）や得点係といった学習を「支える」役割の大切さにも気づかせる活動にも取り組ませた。一人一人の学習への参加意識を高めていくために、学級の係活動（体育係、配り係、掲示係、情報係等）との関連を図ることで、学級全体で体育の授業を作り上げていく意識を共有し、主体的に体育学習に取り組む児童の育成を目指した。

④「知る」

フラッグフットボールについて「知る」活動を通して、学習に対する意欲を高めていくことを目指した。競技やルール、学習の進め方について説明するオリエンテーションの時間を設定することで、児童が学習への見通しを持ち、安心して学習に取り組めるよう指導の工夫を図った。

また、「する・みる・支える・知る」相互の関連を図った学習活動を展開させるために、個人やチームでの学びや成長を実感できる学習活動を多く取り入れた。そうした中で、児童が成長に合わせて、ルールを工夫したり、新たな作戦を考えたりするなど、児童の主体的な学びが深まるよう活動の工夫を試みた。

「知る」活動が運動やスポーツの面白さをより一層高めることに気づき、今後の学習や生活により意欲的に取り組むようになることを目指し実践に取り組んだ。

(5) 単元指導計画

表 8 フラッグフットボール単元指導計画

4年	フラッグフットボール 指導計画 (案)			期間 11/15～12/1	【7時間】	体育館										
学習目標	知識及び技能		運動の楽しさや喜びに触れ、フラッグフットボールの行い方を知ることができるようにする。													
	思考力、判断力、表現力等		「基本的なボール操作」と「ボールを持たないときの動き」によって、易しいゲームができるようにする。													
	学びに向かう力、人間性等		規則を工夫したり、簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。													
	時間		1	2	3	4	5(本時)	6	7							
	11月15日(火)		11月17日(木)		11月18日(金)		11月22日(火)		11月25日(金)		11月29日(火)		12月1日(木)			
学習の流れ	0	1, 整列・あいさつ		2, めあての確認		3, リズム体操		1, あいさつ		1, 整列・あいさつ		2, めあての確認		3, リズム体操		
		【めあて】 学習の進め方を知り、 ボールになれる運動を楽しもう。		【めあて】 フラッグフットボールの作戦を知り、 試しのゲームにチャレンジしよう。		【めあて】 フラッグフットボールの作戦を知り、 試しのゲームにチャレンジしよう。		【めあて】 チームの特徴を生かした、 作戦を考えよう。		【めあて】 作戦ブックを生かして ゲームにチャレンジしよう。		【めあて】 作戦ブックを生かして ゲームを楽しもう。		【めあて】 学習を振り返り、リーグ戦に チャレンジしよう。		
	5	4, 【活動①】 オリエンテーション ・フラッグフットボールについて ・学習の進め方 ・1時間の流れ ・学習の約束 等		4, 活動① 基礎感覚運動 【パワーアップタイム】 それぞれの動きのコツを見つけながら、 フラッグフットボールの技能を身につける。 ①スポーツ鬼ごっこ ②ハンドオフリレー ③キャッチボール ④移動キャッチボール		2, 【作戦ブックづくり】 ○攻め方や守り方についての 作戦を各チームで考える。 ○作戦ボード、 ○ジャムボード ○ワークシート ※各チームが意見を出しやすい (まとめやすい)方法を用いる。		4, 活動①【ゲーム①】 ・ゲーム(6分) ・各チーム4回の攻撃。 ・各チーム1試合。 ※作戦ブックの活用。				4, 【ゲーム】 「4-1カップ」 ・リーグ戦 ※各チーム5試合(6分) ※休憩タイム & 作戦確認 タイムを設ける。 ※これまでの作戦を生かして、 ゲームを楽しむように声を かける。				
	15	4, 【活動②】 基礎感覚運動の説明 (パワーアップタイム) ①スポーツ鬼ごっこ ②ハンドオフリレー ③キャッチボール ④移動キャッチボール		★伝え合いタイム・・・友だちや各チームの動きから、 良い点やうまくできる コツ等を全体で共有する。		3, 【作戦の確認タイム】 ○チームで考えた 作戦を確認する。 ※対戦はせずに、 自チームのみで 確認を行う。		5, 活動② 【作戦ブックの見直し】 ・ゲーム①を通して 見つかった、改善点等 を話し合う。		5, 【パワーアップタイム】 ・自分のチームの課題に 沿ったパワーアップタイム & 作戦タイムを行う。						
	30	◎中盤に「伝え合いタイム」を設定し、 ボールの扱い方のポイントについて 確認する。		5, 活動② ◎【試しのゲーム】に チャレンジルールを チームで確認しながら、 楽しく 試しのゲームを行う。 ※児童の困り観を引き出し、 規則の工夫につなげる。				6, 活動③ 【ゲーム②】 ・各チーム1試合。 ・見直した作戦を試す。		6, 活動② 【ゲーム②】 ・ゲーム(6分) ・各チーム2試合。 ・作戦ブックの活用。						
	40															
	45															
	☆ふり振り返り(できるようになったこと、むずかしかったこと、楽しかった事、友だちの良い所、次がんばりたいこと等を発表させ、必要に応じて褒めと結びつけて発表する)															
	評価標準	知・技	①ワークシート		②観察		③観察				③観察		③観察			
		思考力					①観察・ワークシート		①観察・ワークシート		①観察・ワークシート					
態度		③観察		①ワークシート・観察				②観察				③観察				

(6) 公開授業における学習指導(第5時間目)

①本時の目標

自分とチームの友達の役割を踏まえた、簡単な作戦を考えたり、選んだりすることができる。

②本時の授業仮説

ゲームにチャレンジする活動において、作戦ブックを生かした話し合いの場を設定することにより、作戦の見直しや改善が積極的に行われるであろう。

③本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ★評価標準
導入 8分	1 整列・あいさつ	・健康観察により、児童の様子を把握する。
	2 めあての確認	・学習の流れを掲示し、児童が学習への見通しを持てるようにする。
めあて：作戦ブックを生かして、ゲームにチャレンジしよう。		

	3 動的運動（リズム体操）	音楽に合わせて準備運動を行うことで、授業に向かうための心と身体の準備をする。
展開① 10分	4 ゲーム①にチャレンジ - 前時に考えた作戦を生かしてゲームに取り組む。 - ゲーム（試合時間6分，チーム1試合） - 児童の役割（プレイヤー・得点係）を生かしながらゲームを進める。	- チームで作成した作戦ブックを活用しながら，ゲームにチャレンジする。 - 作戦の良さや課題等を見つける。
展開② 12分	5 作戦ブックの見直し・共有（全体） - ゲーム①を通して見つかった，作戦の良さ・改善点等について話し合う。 - 作戦ブックの見直したポイントや動きの変更点を全体で共有する。	作戦ブックについての意見交流を促す。
展開③ 10分	6 ゲーム②にチャレンジ - 見直した作戦ブックの確認をする。 - ゲーム（試合時間6分，1試合）	★自分とチームの友達の役割を踏まえた，簡単な作戦を考えたり，選んだりしている。 （観察・ワークシート） 【思考・判断・表現②】 ゲーム中の友達の良い動きを発見できるように意識しながら，応援するように声かけをする。
まとめ 5分	7 まとめ・ふり返し 本日の学習をふり返し，本時の学びや次時に向けての取り組み等を確認する。	作戦ブックの見直しを通して，上手くいったことや次時でチャレンジしたいことを考えるように促す。

3 授業実践「グリッドサッカー」

(1) 実施学年・学級

○第4学年1組 32名 ○第4学年3組 31名

(2) 単元の指導目標

【知識及び技能】

グリッドサッカーの行い方を知るとともに，基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって，易しいゲームをすることができるようにする。

【思考力，判断力，表現力等】

規則を工夫したり，簡単な作戦を選んだりするとともに，考えたことを友達に伝えることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

グリッドサッカーに進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気をつけたりすることができるようにする。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①グリッドサッカーの行い方について、言ったり書いたりしている。	①誰もが楽しくゲームに参加できるように、規則を工夫している。	①規則を守り、ゲームに進んで取り組もうとしている。
②基本的なボール操作（パス・ドリブル・トラップ・シュート）によって、易しいゲームをすることができる。	②自分とチームの友達の役割を踏まえた、簡単な作戦を考えたり、選んだりしている。	②攻め方や守り方について意見を出し合う際に、友達の考えを認めようとしている。
③ボールを持たないときの動き（空いている場所への移動・パスを受ける動き）によって、易しいゲームをすることができる。	③攻めや守りの工夫等について考えたことを、動作や言葉、絵図などを使って友達に伝えている。	③場や用具の準備・片付けを行ったり、安全を確かめたりしている。

(4) 研究テーマ・研究仮説（体育科の見方・考え方）との関わり

①「する」

基本的なボール操作（パス・ドリブル・トラップ・シュート）とボールを持たないときの動き（空いている場所への移動・パスを受ける動き）の向上を図るため、基礎感覚運動を導入した。また、「グリッドサッカー」に係る知識及び技能の習得・向上を図られるように、単元計画・授業計画を見直し、基礎感覚運動を単元全体に組み入れた。

さらに、「作戦づくり」の時間（第4時目）を設定することで、児童の交流活動の充実を図った。友達と意見を交流し作戦を考えることへの意識が向上してきている実態を踏まえ、複数の作戦を考え、ゲームの中で実践する活動に取り組んだ。自己や友達の技能の習得状況に応じて、「作戦」の視点（パス・ドリブル等）をより明確にし、作戦の効果や役割分担を具体的に考える活動も取り入れた。

学習で取り組む複数の活動と体育科の見方・考え方である「する・みる・支える・知る」を働かせた「作戦づくり」との関連を図り、主体的に体育学習に取り組む児童の育成を目指した。

②「みる」

個人やチームによる気づきや学びを共有していくために、「伝え合いタイム」を導入し、互いの考えを認め合う活動を実践した。また、「みる」活動を作戦づくりや交流活動の活性化につなげていくために、ICT 機器（タブレット）で撮影したゲームの映像を共有し、「作戦づくり」に活用することで、児童の「みる」活動に対する意欲の向上を図った。

児童の「みる」活動を支える手立てとして、単元計画や授業計画の見直しによる時間の確保に取り組んだ。ICT 機器の取り扱い方法等の学習ルールを事前に確認し、4年生の発達段階に合わせた学習活動を展開することで、安心してグリッドサッカーと向き合えるよう指導の工夫を試みた。

③「支える」

運動時間の確保や基礎感覚運動（パワーアップタイム）の導入により、グリッドサッカーに対して親しみを持たせることで、体力面や技能面での「支える」という活動に取り組ませた。

また、児童がこれまでの体育学習で実践してきた「作戦づくり」の経験を、学習を支える力として生かし、知識及び技能を活用した課題解決や学習したことを友達に伝えること等の場面を多く設定することで、主体的に学びに向かうよう学習活動を展開した。

さらに、学習を進めていく中で、場の設定（準備、片付け）や得点係、審判といった学習を「支える」役割の大切さにも気づかせる活動にも取り組み、一人一人の学習への参加意欲を高めいく活動を実践した。学級の係活動（体育係、配り係、掲示係、情報係等）との関連を図ることで、学級全体で体育の授業を作り上げていく意識を共有し、主体的に体育学習に取り組む児童の育成を目指した。

④「知る」

グリッドサッカーについて「知る」活動を通して、体育学習に対する意欲を高める指導の工夫を取り入れた。学習の進め方等について説明するオリエンテーションの時間を設けることで、児童が学習への見通しを持ち、安心して学習に取り組めるよう指導の工夫を図った。

また、基礎感覚運動やゲーム、児童の交流活動を通して、グリッドサッカーの特性やルール等への理解を深めていく活動に取り組ませた。特性理解やルールへの理解が深まれば、「作戦づくり」に効果的であり、交流活動の充実につながることを児童自身が感じることができるよう学習活動を展開した。

スポーツ（グリッドサッカー）について、より深く「知る」ことが運動やスポーツの面白さをより一層高め、今後の学習や生活により意欲的に取り組むようになることを目指し指導の充実を図った。

(5) 単元指導計画

表9 グリッドサッカー単元指導計画

4年	グリッドサッカー	指導計画（案）	期間 2/14～3/3	【7時間】	運動場			
学習目標	知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等	運動の楽しさや喜びに触れ、グリッドサッカーの行い方を知ることができるようにする。						
		「基本的なボール操作」と「ボールを持たないときの動き」によって、易しいゲームができるようにする。						
		規則を工夫したり、簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。						
	時間	1	2	3	4	5	6	7
		2月14日（火）	2月17日（金）	2月21日（火）	2月24日（金）	2月28日（火）	3月2日（木）	3月3日（金）
学習の流れ	0	1, 整列・あいさつ	2, めあての確認	3, リズム体操	1, あいさつ	1, 整列・あいさつ	2, めあての確認	3, リズム体操
		【めあて】 学習の進め方を知り、ボールになれる運動を楽しもう。	【めあて】 パワーアップタイムを生かして、試しのゲームにチャレンジしよう。	【めあて】 パワーアップタイムを生かして、試しのゲームにチャレンジしよう。	【めあて】 チームの特徴を生かした、作戦を考えよう。	【めあて】 作戦を生かしてゲームにチャレンジしよう。	【めあて】 作戦を生かしてゲームを楽しもう。	【めあて】 学習を振り返り、リーグ戦にチャレンジしよう。
	5	4, 【活動①】 オリエンテーション ・グリッドサッカーについて ・学習の進め方 ・1時間の流れ ・学習の約束 等	4, 活動① 基礎感覚運動 【パワーアップタイム】 ・それぞれの動きのコツを見つけながら、サッカーの技能を身に付ける。 ①ボールタッチ ②ドリブルリレー ③パスゲーム ④2 v 1 ゲーム	2, 基礎感覚運動 ・各チームごとに行う。 3, 【作戦づくり】 ○攻め方や守り方についての作戦を各チームで考える。 ○作戦ボード ○ジャムボード ○ワークシート ※各チームが意見を出しやすい（まどめやすい）方法を用いる。	4, 活動① 基礎感覚運動 ・各チームごとの実態に合わせた基礎感覚運動に取り組み、技能面の向上を図る。	5, 活動②【ゲーム①】 ・ゲーム（1試合8分 前後半4分） ・各チーム1試合ずつ。 ※作戦の活用。	4, 【ゲーム】 「4-1カップ」 ・リーグ戦 ※各チーム3試合（前後半4分） 計8分	
	15	5, 【活動②】 基礎感覚運動の説明（パワーアップタイム） ①ボールタッチ ②ドリブルリレー ③パスゲーム ④2 v 1 ゲーム	5, 伝え合いタイム ・友だちや各チームの動きから、良い点やうまくできるコツ等を全体で共有する。	4, 【作戦の確認タイム】 ○チームで考えた作戦を確認する。 ※対戦はせずに、自チームのみで確認・練習を行う。	6, 活動③ 【作戦の見直し】 ・ゲーム①を通して見つかった、改善点・修正点等について話し合う。	7, 活動④ 【ゲーム②】 ・各チーム1試合。 ・ゲーム（1試合8分 前後半4分） ・見直した作戦を試す。	※休憩タイム & 作戦確認 タイムを設ける。	
	30	◎中盤に「伝え合いタイム」を設定し、ボールの扱い方のポイントについて確認する。	6, 活動② ◎【試しのゲーム】にチャレンジ ・ルールをチームで確認しながら、楽しく試しのゲームを行う。 ※児童の困り感を引き出し、規則の工夫・作戦の工夫につなげる。				※これまでの作戦を生かして、ゲームを楽しむように声をかける。	
	40							
	45							
		☆ふり振り返り（できるようになったこと、むずかしかったこと、楽しかった事、友だちの良い所、次がんばりたいこと等を発表させ、必要に応じて褒めと結びつけて発表する）						
評価規準	知・技	①ワークシート	②観察	③観察				④観察
	思考力			①観察・ワークシート	②観察・ワーク・ジャムボード	③観察・ワーク・ジャムボード	④観察・ワーク・ジャムボード	
	態度	③観察	①ワークシート・観察		②観察			③観察

(6) 公開授業における学習指導（第5時間目）

①本時の目標

自分とチームの友達の役割を踏まえた、簡単な作戦を考えたり、選んだりすることができる。

②本時の授業仮説

グリッドサッカーにおけるゲームにチャレンジする活動において、作戦を生かした話し合いの場を設定することにより、作戦の見直しや改善が積極的に行われるであろう。

③本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ★評価規準
導入 5分	1 整列・あいさつ	・健康観察により、児童の様子を把握する。
	2 めあての確認	・学習の流れを掲示し、児童が学習への見通しを持てるようにする。
	めあて：作戦を生かして、ゲームにチャレンジしよう。	

	3 動的運動（リズム体操）	・音楽に合わせて準備運動を行うことで、授業に向かうための心と身体の準備をする。
展開① 5分	4 基礎感覚運動【パワーアップタイム】 ①ボールタッチ ②ドリブルリレー ③パスゲーム ④2vs1 ゲーム	・各チームがそれぞれの実態に応じて4つの基礎感覚運動の中から、取り組む運動を選ぶ。
展開② 10分	5 ゲーム①（各チーム1試合） ・前時に各チームで考えた作戦を生かしてゲームに取り組む。 ・前後半4分ずつ（計8分間）	・チームで考えた作戦を活用しながら、ゲームにチャレンジする。 ・作戦の良さや課題等を見つける。
展開③ 8分	6 作戦の見直し ・ゲーム①を通して見つかった、作戦の良さ・改善点等について話し合う。 ・ゲームにおける役割について話し合う。 児童から予想される役割の例 ・主に攻める人、守る人 ・パスを出す人、受ける人 ・ドリブルする人、空間へ動く人	・作戦についての意見交流を促す。 ・新たにどのような攻め方・守り方ができそうか考えるように声をかける。 ★自分とチームの友達の役割を踏まえた、簡単な作戦を考えたり、選んだりしている。 (観察・ワーク・ジャムボード) 【思考・判断・表現②】
展開② 10分	7 ゲーム②（各チーム1試合） ・見直した作戦の確認をする。 ・作戦を生かし、ゲームにチャレンジする。 ・前後半4分ずつ（計8分間）	・ゲーム中の友達の良い動きを発見できるように意識しながら、応援するように声かけをする。
まとめ 6分	8 まとめ・ふり返し ・本日の学習をふり返し、本時の学びや次時に向けての取り組み等を確認する。	・上手くいったことや次時でチャレンジしたいことを考えるように促す。

VII 結果と考察

1 分析方法

(1) 運動有能感及び診断的・総括的調査

主体的に体育学習に取り組み、運動を楽しく継続して行うためには、運動に対する内発的動機付けや学習課題の適切な設定が重要である。

本研究では、内発的動機付けとの関連が示されている運動有能感、学習課題が児童にとって適切であるかを判断する診断的・総括的調査を児童が主体的に体育学習に取り組んでいるかを見取るための指標として活用した。

フラッグフットボール、グリッドサッカーの授業に参加した4年生63名（男子33名、女子30名）を対象に、単元1時目（実践前）と単元7時目（実践後）において、運動有能感と診断的・総括的調査を行った。

調査を実施した児童（フラッグフットボールでは、欠席した1名を除いた62名、グリッドサッカーでは、欠席した2名を除いた61名）の回答結果を集計した。また、集計したデータを、運動有能感の総合得点の高い順位にランキングし、上位50%を上位群、下位50%を下位群と定義しその変容を分析した。

（2）児童の振り返りの変容・作戦づくりに関する意識調査

児童が学習活動を通して、交流活動に意欲的に取り組んでいるかについて、児童の振り返りの変容や「作戦づくり」に関するアンケート調査をもとに考察を行った。

振り返りの変容に関しては、体育学習に対する取り組みが、それぞれ「得意・標準・不得意」の児童をそれぞれ1名ずつ（計3名）抽出した。児童の抽出に関しては、これまでの学習態度等を考慮し、担任教師と協議のうえ決定した。

「作戦づくり」に関する意識調査は、児童の「作戦づくり」における実態を把握するために、検証授業前に実施したものであり、2022年9月・2023年2月にそれぞれ取り組んだ。「友達と意見を交流して作戦を考えるのは得意ですか？」の質問に対して、2022年9月実施時は「はい・いいえ」、2023年2月実施時は「得意・やや得意・少し苦手・苦手」の回答項目を設定した。なお、「作戦づくり」に関する意識調査に関しては、全児童に対して実施することができず、4年1組32名（男子16名・女子16名）への実施となった。

2 フラッグフットボールにおける学習の結果

（1）運動有能感に関する調査結果

3 因子「身体的有能さの認知、統制感、受容感」で構成される運動有能感に関して、フラッグフットボールの授業介入前後の比較を行った。（調査を実施した62名を上位群と下位群に分類して比較）

その結果、下位群の「受容感」（13.96－15.35）において介入後の得点に向上が確認された（図9）。「受容感」は、教師や仲間からの受け入れに関する項目で構成されており、フラッグフットボールにおける「作戦づくり」に向けた3つの取り組みが、児童の交流活動（教え合い・学び合い等）の活性化に効果的であり、学級全体やグループ内において、意見を伝えたり、受け入れたりする機会が増加したことが、下位群児童の「受容感」の高まりにつながったと考えられる。

（2）診断的・総括的調査の結果

4 因子「たのしむ・情意目標、できる・運動目標、まなぶ・認識目標、まもる・社会的行動目標」で構成される診断的・総括的調査に関しても運動有能感調査と同様に授業介入前後の比較を行った。（調査を実施した62名を上位群と下位群に分類して比較）

その結果、体育学習に対する意欲や自信に関する項目で構成されている、「できる・運動目標」において下位群での高まり（10.39－10.87）を確認することができた（表10）。

「作戦づくり」に向けて取り組んだ単元計画の見直しや学習活動の工夫等が、運動技能の向上や交流活動の充実に効果的に働き、「できる・運動目標」の高まりにつながったと考えられる。

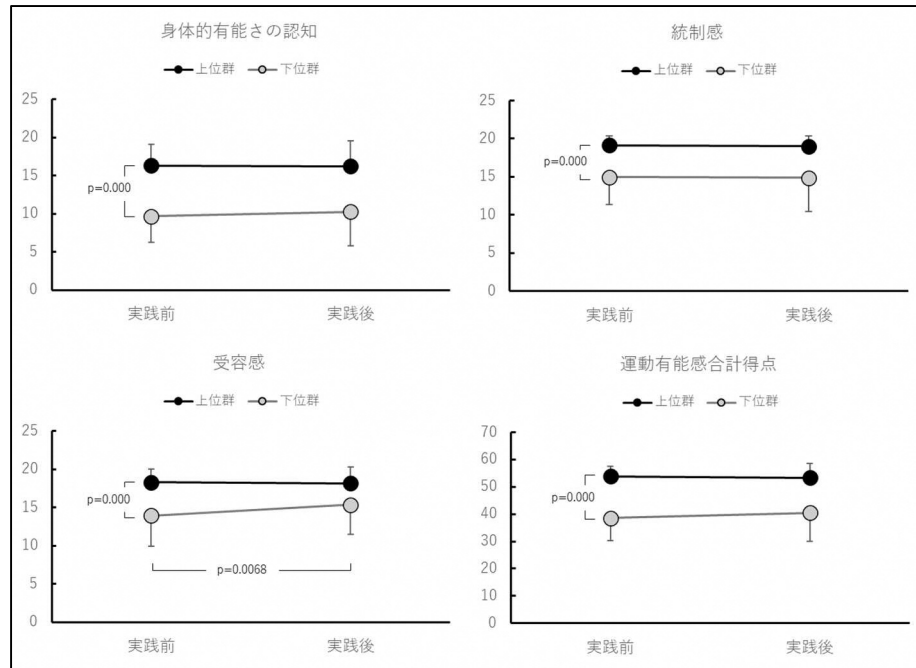


図9 フラッグフットボール授業介入前後における運動有能感の変化

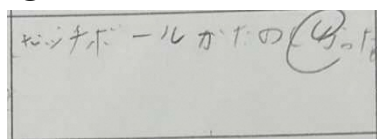
表 10 上位群と下位群における診断的・総括的調査結果の比較

項目名	上位群 (n=31)				下位群 (n=31)				2票因分散分析 (群×時間)			
	実践前		実践後		実践前		実践後		主効果 (F値)		交互作用 (F値)	単純主効果
	Mean(SD)	診断基準	Mean(SD)	診断基準	Mean(SD)	診断基準	Mean(SD)	診断基準	群	時間		
Q 2 心理的充足	2.90 (0.40)		2.94 (0.36)		2.39 (0.67)		2.45 (0.68)					
Q 7 楽しく勉強	2.87 (0.34)		2.94 (0.36)		2.74 (0.51)		2.65 (0.61)					
Q 11 明るい雰囲気	2.71 (0.64)		2.94 (0.36)		2.58 (0.67)		2.29 (0.86)					
Q 13 丈夫な体	2.87 (0.43)		2.87 (0.43)		2.42 (0.67)		2.55 (0.77)					
Q 17 精一杯の運動	2.97 (0.18)		2.81 (0.48)		2.48 (0.63)		2.61 (0.62)					
たのしみ (情意目標)	14.32 (1.35) +		14.48 (1.67) +		12.61 (2.49) 0		12.55 (2.84) 0		17.86 ***	0.73	0.18	
Q 6 授業前の気持ち	2.71 (0.59)		2.74 (0.51)		2.10 (0.79)		2.42 (0.76)					
Q 9 運動の有能感	2.52 (0.68)		2.71 (0.59)		1.71 (0.74)		1.68 (0.70)					
Q 10 自発的運動	2.81 (0.48)		2.65 (0.61)		2.13 (0.72)		2.06 (0.85)					実践前：上位群>下位群 ***
Q 15 いろいろな運動の上達	2.90 (0.30)		2.81 (0.48)		2.39 (0.67)		2.52 (0.63)					実践後：上位群>下位群 ***
Q 19 できる自信	2.87 (0.34)		2.81 (0.48)		2.06 (0.63)		2.19 (0.79)					上位群：実践前=実践後
できる (運動目標)	13.81 (1.68) +		13.71 (1.99) +		10.39 (2.68) 0		10.87 (3.05) 0		35.73 ***	3.45 †	4.59 *	下位群：実践前<実践後 **
Q 3 工夫して勉強	2.74 (0.58)		2.74 (0.58)		2.42 (0.72)		2.35 (0.75)					
Q 5 めあてを持つ	2.65 (0.61)		2.81 (0.48)		2.42 (0.72)		2.35 (0.84)					
Q 8 他人を参考	2.81 (0.48)		2.84 (0.45)		2.29 (0.74)		2.45 (0.77)					
Q 12 時間外練習	2.03 (0.75)		1.84 (0.82)		1.48 (0.57)		1.55 (0.68)					
Q 16 友人・先生の励まし	2.61 (0.72)		2.97 (0.18)		2.52 (0.63)		2.68 (0.65)					
まなぶ (認知的目標)	12.84 (2.13) +		13.19 (1.70) +		11.13 (2.23) 0		11.39 (2.58) 0		16.87 ***	3.40 †	0.69	
Q 1 先生の話を聞く	2.90 (0.40)		2.94 (0.25)		2.74 (0.51)		2.74 (0.51)					
Q 4 自分勝手	2.81 (0.48)		2.97 (0.18)		2.68 (0.54)		2.58 (0.67)					
Q 14 勝負を認める	2.68 (0.65)		2.90 (0.30)		2.68 (0.65)		2.74 (0.63)					
Q 18 約束事を守る	2.87 (0.34)		2.97 (0.18)		2.65 (0.55)		2.81 (0.40)					
Q 20 ルールを守る	3.00 (0.00)		3.00 (0.00)		2.90 (0.40)		2.97 (0.18)					
まもる (社会的行動目標)	14.26 (1.29) +		14.77 (0.50) +		13.65 (2.20) 0		13.84 (1.86) +		5.83 *	2.21	0.08	
総合評価	55.23 (4.97) +		56.16 (4.95) +		47.77 (8.09) 0		48.65 (9.07) 0		25.02 ***	2.78	0.76	

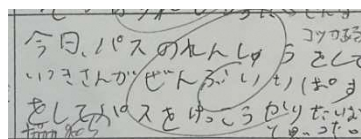
***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05, †:p<0.1

(3) 児童の振り返りの変容（フラッグフットボール）

① K 君



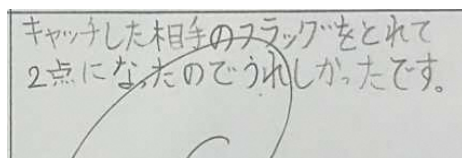
キャッチボールがたのしかった。



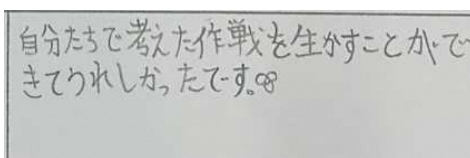
今日、パスの練習をしてIさんがぜんぶいいパスをしてパスをけっこうやりたいなと思った。

「作戦づくり」を経験することで、友達の良いところを見つけ、今後の見通しに関する記述が見られるようになった。

② S さん



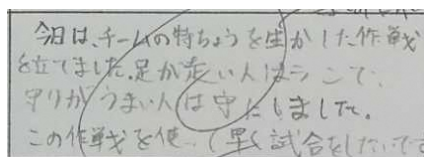
キャッチした相手のフラッグをとれて2点になったのでうれしかったです。



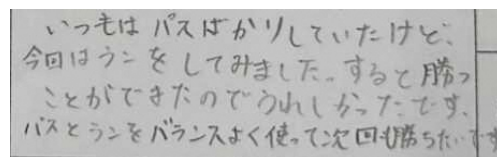
自分たちで考えた作戦を生かすことができてうれしかったです。

単元前半では、個人の活躍についての振り返りが記述されていたが、単元後半では、作戦を生かすことへの感想が記述されており、学習活動で取り組んだ「作戦づくり」への意識が向上している様子を読み取ることができた。

③ R さん



今日は、チームの特ちょうを生かした作戦を立てました。足が速い人はランで守りが上手い人は守りにしました。この作戦を使って早く試合をしたいです。



いつもは、パスばかりしていたけど、今回はランをしました。
すると勝つことができたのでうれしかったです。パスとランをバランスよく使って次回も勝ちたいです。

第4時目でも、チームやメンバーの特徴を生かして作戦を考えている様子が見られたが、作戦ブックを活用した授業後（第5・6時）では、相手に応じた作戦の使い分けや使い分けの効果等までが記述されており、「作戦づくり」がより発展的な思考につながり、体育科の見方・考え方がより豊かに育まれている様子を読み取ることができた。

3 グリッドサッカーにおける学習の結果

(1) 運動有能感に関する調査結果

運動有能感に関して、グリッドサッカーの授業介入前後の比較を行った。（調査を実施した 61 名を上位群と下位群に分類して比較）

その結果、上位群・下位群の「統制感」（上位群 18.83－19.29, 下位群 15.00－16.33）、及び下位群の「受容感」（15.16－16.83）が向上していることを確認することができた（図 10）。

努力・練習と運動技能の結び付き等の項目で構成されている「統制感」が向上していることは、学習活動を通して運動技能の向上を実感している児童が多くいるという結果を裏付けるものであり、「作戦づくり」に向けた取り組みの一環である、単元計画・授業計画の見直しによる、運動時間（身体活動量）の確保が「統制感」の向上に効果的であったと考えることができる。

また、運動技能の向上が「作戦づくり」の活性化に効果的であることを「受容感」の高まりから読み取ることができた。運動技能の向上により、体育科の見方・考え方を働かせた「作戦づくり」が効果的に展開され、その結果として、作戦や役割（ポジション）を複数から選択できるようになるなど、グループ内において一人一人の存在意義を感じる場面が増加したことが、下位群児童の「受容感」高まりにつながったと考えられる。

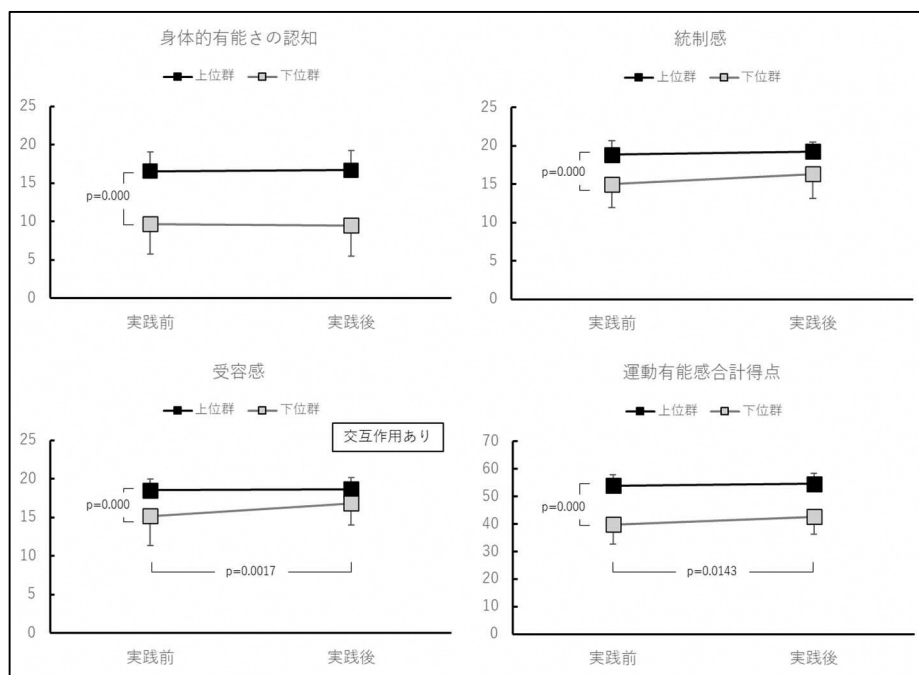


図 10 グリッドサッカー授業介入前後における運動有能感の変化

(2) 診断的・総括的調査の結果

診断的・総括的調査に関して、グリッドサッカーの授業介入前後の比較を行った。（調査を実施した 61 名を上位群と下位群に分けて分類して比較）

その結果、下位群の「まなぶ・認識目標」（11.57－12.03）及び「総合評価」（48.53－50.33）の高まりを確認することができた（表 11）。

フラッグフットボールから継続して取り組んできた学習活動（3つの取り組み）が定着し、児童が見通しを持って学習に取り組めたことが、意識（めあて）の共有や学習活動に関する工夫等の項目で構成されている「まなぶ・認識目標」の向上につながっていると考えられる。

また、総合評価に向上が見られたことは、中学年ゲームにおける「作戦づくり」と関連した多様な学習活動が、フラッグフットボールからグリッドサッカーにかけてその効果を持続させ、学習単元の枠を超えて「主体的に体育学習に取り組む児童の育成」に効果的であると考えられることができる。

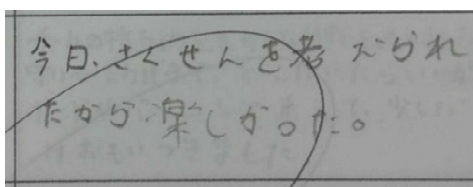
表 11 上位群と下位群における診断的・総括的調査結果の比較

項目名	上位群 (n=31)				下位群 (n=30)				2要因分散分析 (群×時間)		
	実践前		実践後		実践前		実践後		主効果 (F値)		単純主効果
	Mean(SD)	診断基準	Mean(SD)	診断基準	Mean(SD)	診断基準	Mean(SD)	診断基準	群	時間	
Q 2 心理的充足	2.87 (0.43)		2.97 (0.18)		2.40 (0.72)		2.47 (0.68)				
Q 7 楽しく勉強	3.00 (0.00)		2.97 (0.18)		2.53 (0.57)		2.67 (0.61)				
Q 11 明るい雰囲気	2.87 (0.43)		2.87 (0.34)		2.43 (0.73)		2.73 (0.58)				
Q 13 丈夫な体	2.83 (0.38)		2.87 (0.34)		2.63 (0.61)		2.63 (0.61)				
Q 17 精一杯の運動	2.90 (0.30)		2.90 (0.30)		2.57 (0.68)		2.70 (0.65)				
たのしみ (情意目標)	14.39 (1.15) +		14.58 (0.96) +		12.57 (2.50) 0		13.20 (2.52) 0		13.47 ***	3.38 †	0.96
Q 6 授業前の気持ち	2.77 (0.43)		2.81 (0.40)		2.30 (0.70)		2.13 (0.82)				
Q 9 運動の有能感	2.61 (0.50)		2.61 (0.50)		1.57 (0.68)		1.63 (0.81)				
Q 10 自発的運動	2.77 (0.43)		2.74 (0.44)		2.10 (0.71)		2.23 (0.73)				
Q 15 いろんな運動の上達	2.90 (0.30)		2.90 (0.30)		2.37 (0.76)		2.63 (0.56)				
Q 19 できる自信	2.68 (0.60)		2.84 (0.37)		2.07 (0.78)		2.03 (0.81)				
できる (運動目標)	13.74 (1.61) +		13.90 (1.25) +		10.40 (2.72) 0		10.67 (2.78) 0		41.02 ***	0.92	0.06
Q 3 工夫して勉強	2.71 (0.53)		2.90 (0.30)		2.33 (0.71)		2.53 (0.68)				
Q 5 めあてを持つ	2.87 (0.34)		2.84 (0.37)		2.67 (0.55)		2.67 (0.61)				
Q 8 他人を参考	2.81 (0.48)		2.74 (0.44)		2.60 (0.72)		2.53 (0.78)				
Q 12 時間外練習	2.19 (0.83)		2.10 (0.79)		1.40 (0.62)		1.47 (0.68)				
Q 16 友人・先生の励まし	2.84 (0.37)		2.90 (0.30)		2.57 (0.68)		2.83 (0.46)				
まなぶ (認識目標)	13.42 (1.82) +		13.48 (1.31) +		11.57 (2.19) +		12.03 (2.13) +		16.52 ***	1.02	0.58
Q 1 先生の話聞く	2.84 (0.45)		2.90 (0.30)		2.80 (0.48)		2.93 (0.25)				
Q 4 自分勝手	2.87 (0.34)		2.87 (0.34)		2.63 (0.61)		2.70 (0.53)				
Q 14 勝負を認める	2.97 (0.18)		2.84 (0.37)		2.80 (0.55)		2.90 (0.40)				
Q 18 約束事を守る	2.90 (0.30)		2.90 (0.30)		2.87 (0.43)		2.90 (0.31)				
Q 20 ルールを守る	2.97 (0.18)		2.97 (0.18)		2.90 (0.40)		3.00 (0.00)				
まもる (社会的行動目標)	14.55 (0.93) +		14.48 (1.03) +		14.00 (2.05) +		14.43 (0.82) +		1.08	1.23	2.25
総合評価	56.10 (4.78) +		56.45 (3.20) +		48.53 (8.07) 0		50.33 (6.52) +		25.90 ***	2.42	1.09

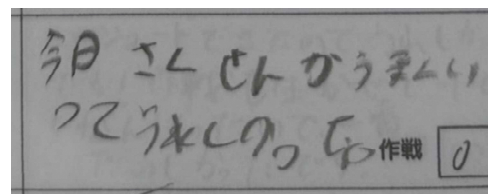
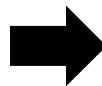
***:p<0.001, **:p<0.01, *:p<0.05, †:p<0.1

(3) 児童の振り返りの変容（グリッドサッカー）

① K 君



今日、さくせんを考えられたから楽しかった。

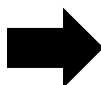


さくせんがうまくいってうれしかった。

振り返りを記述することがあまり得意でない児童であるが、検証授業①「フラッグフットボール」、検証授業②「グリッドサッカー」で取り組んできた、「作戦づくり」の活動が定着している様子を読み取ることができた。

② Sさん

作戦をみんなで話し合いながら考えていたのですーと思いました。
ポジショニングの事をくわしくわかりました!! haw haw



初めて試合に出たけど、ボールをまもれてうれしかった。ゴールの近くをあまり守れなかった。負けたけど楽しめた!! せめと守りをたてにならなくてせめた!

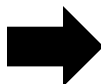
作戦をみんなで話し合いながら考えていたのですー
と思いました。
ポジショニングの事をくわしくわかりました。

初めて試合に出たけどボールをまもれてうれし
かった。ゴールの近くをあまり守れなかった。
負けたけど楽しめた。せめと守りをたてになら
んでせめた!

「作戦づくり」の際には、ポジショニングというワードが出てきていて、知識・技能を活用した課題解決（作戦づくり）の様子が見られたが、単元後半の振り返りでは、「たて」という具体的な視点での振り返りが記述されており、グリッドサッカーにおける知識の獲得と思考の深まりを読み取ることができた。

③ Rさん

チームの特ちょうを生かした作戦を考えました。
こうげきでどこにいたらいいか、ボードやパソコンで考えて、少しだけおもいっきました。



1勝1敗1分でした。
1対1で、めい一点入、たらま
けちゃうとき、ななみさんが、ゴールを
とめてくれて、引き分けて終わりました。
した、ななみさんがとめてくれた。

チームの特ちょうを生かした作戦を考えました。
こうげきでどこにいたらいいか、ボードやパソコンで考えて、少しだけおもいっきました。

1勝1敗1分でした。
1対1であと一点入ったらまけちゃうとき、Nさんがゴールをとめてくれて、引き分けで終わりました。Nさんがとめていなかったら、まけていたので、Nさんがかっこいいなと思いました。

単元のまとめとして取り組んだリーグ戦後（第7時目）の振り返りでは、チームメイトへの賞賛が記述されており、グリッドサッカーで取り組んだ「作戦づくり」を通して、ボール運動系の特性である友達と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わう活動が充実している様子を読み取ることができた。

4 「作戦づくり」に関する意識調査

体育科の見方・考え方を働かせた「作戦づくり」と関連した多様な学習活動が、交流活動の充実につながり、児童の「作戦」に関する意識が向上していることをアンケートの結果から読み取ることができた。

(作戦を考える活動が得意と回答した児童の割合、9月実施 41%－2月実施 79%)

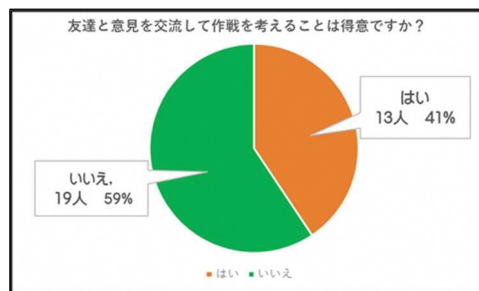


図 11 9月実施アンケート結果

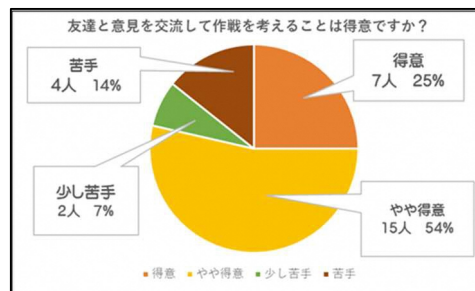


図 12 2月実施アンケート結果

5 考察

中学年ゲームの学習において、「作戦づくり」と関連した3つの取り組み（単元計画・授業計画の見直し、作戦を考える手段の工夫、作戦の活用方法の工夫）が、学級やグループ内での、意見を伝えたり、受け入れたりする機会を増加させ、交流活動や身体活動の充実につながり、児童（特に下位群児童）の学習意欲や存在意義、運動技能の認知の向上に効果的であることを、運動有能感及び診断的・総括的調査の分析結果から読み取ることができた。

体育学習に対して個人差のある3名の振り返りや「作戦づくり」に対する意識が向上している結果（表12・図12）からは、「作戦づくり」と関連した学習活動が児童に定着している様子を読み取ることができた。学習活動の定着により、児童が学習への見通しを持ち、安心感を持って、活動に取り組めたことが、交流活動及び身体活動の充実につながっていると考えることができる。

表 12 振り返りの変容（具体的な記述の視点）

- 1 仲間の特徴を生かした作戦づくり
- 2 ゲームにおいて作戦を生かしたことへの感想
- 3 複数の作戦を使い分ける効果等について
- 4 考えた作戦が成功したことへの感想
- 5 「作戦づくり」の視点（たてに並ぶ）
- 6 友達の学習に取り組む姿への賞賛

また、診断的・総括的調査における「まなぶ・認識目標」及び「総合評価」が有意に向上している結果から、競い合う楽しさに触れたり、友達と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わったりすることができる特性を持つ中学年ゲームの学習において、「作戦づくり」の活性化を図る学習活動（3つの取り組み）が「主体的に体育学習に取り組む児童」の育成に効果的であり、その効果が学習単元の枠を超えて持続していることを読み取ることができた。

以上のことから、体育学習における「作戦づくり」と関連した学習活動が、交流活動の充実（知識及び技能を活用した課題解決や学習したことを友達に伝えること等）に効果的であり、「主体的に体育学習に取り組む児童」の育成を図るうえで、有効な学習過程であったと考える。

VII 成果と課題

1 成果

- (1) 「受容感」や「まなぶ・認識目標」の向上、「授業後の振り返り」の変容から、学習活動を明確に捉えている様子を確認することができた。「作戦づくり」の活性化を図る学習活動を中学年ゲームに取り入れることで、友達と力を合わせ競争する楽しさや喜びを味わい、意欲的に学習に取り組む児童を増やすことができた。
- (2) 「受容感」や「統制感」、「できる・運動目標」や「作戦づくりの意識調査」が向上している結果から、体育学習の中で交流活動が活発に展開されている様子を確認することができた。また、「作戦づくり」に係る学習活動を通して、自分自身の存在意義や運動技能が向上したとを感じる児童の割合を増やすことができた。
- (3) 中学年ゲームにおいて「作戦づくり」を活性化させる学習活動に取り組ませることで、主体的に体育学習に取り組む児童の育成を図ることができた。

2 課題

- (1) ゲーム内での役割が限定され、プレーでの役割や参加頻度に極端な差が出てくるチームがあった。また、「作戦づくり」の際に自分の気持ちを伝えきれず、活動をチームメイトに任せきりで、自分事として捉えきれない児童がおり、さらなる指導の工夫が必要である。
- (2) 振り返りを苦手としている児童への指導方法を工夫していく必要がある。(振り返りの視点の提示や ICT 機器の効果的な活用、ワークシートの工夫等)
- (3) 「作戦づくり」を中学年ゲームの学習に有効に取り入れていくための、年間指導計画の作成の工夫が必要である。

VIII 参考文献

- 1 文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説体育編」 東洋館出版社 2018
- 2 中央教育審議会「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）別紙資料（2/3）」 平成 28 年 12 月
- 3 奈須正裕 「『資質・能力』と学びのメカニズム」 東洋館出版社 2017
- 4 玉腰和典「体育科の特質に応じた『見方・考え方』を〈内側からの変革〉の契機とする」 体育科教育 10 月号 2021
- 5 岡沢祥訓 北真佐美 諏訪祐一郎「運動有能感の構造とその発達及び性差に関する研究」 スポーツ教育学研究 16 (2) 1996
- 6 長谷川悦示 高橋健夫 浦井孝夫 松本富子「小学校体育授業の形成的評価票及び診断基準作成の試み」 スポーツ教育学研究 14 (2) 1995
- 7 高田俊也 岡沢祥訓 高橋健夫「態度測定による体育授業評価法の作成」 スポーツ教育学研究 20 (1) 2000
- 8 砂川力也 古謝佑汰 嵩原安貴 三井綾乃「子供の健康支援活動に貢献する人材育成に向けた取り組み」 琉球大学教育学部紀要 第 99 集 (99) 2021